

## 「行革甲子園 2018」エントリーシート

### 【取組の内容】

#### 1 取組事例名

地域の力を活かした認知症見守り支援  
～本人も、家族も、地域も、みんな愛顔に～

#### 2 取組期間

平成 25 年度～（継続中）

#### 3 取組概要

本町では、「地域での見守りは地域で」を合言葉に、民生児童委員の役割を整理し、明確な目的を持ってもらうことで、地域でのきめ細やかな活動を活性化させることや、老人クラブ等地域に密着した団体等の協働をはじめ、若年層への見守り活動を広げていくことで、より行政の効率化を目指した。

- ・地域の特性を活かした「県立松山南高等学校砥部分校」との協働
- ・「県立松山南高等学校砥部分校」の専門分野である「デザイン」を活かした社会貢献
- ・民生児童委員との地域情報の共有及び民生児童委員活動に対する意識づけ（活性化）
- ・地域（老人クラブ等）を巻き込んだ体制づくり
- ・認知症高齢者の理解のための集いの場（ほっとカフェの事業化）

#### 4 背景・目的

平成 17 年 1 月に砥部町と広田村が合併した。人口減少の転換期にあつて、少子高齢化が急速に進む広田村との合併であり、介護保険制度などの福祉負担が増大することが予想される中で、地域の様々な問題に対応するため、町の保健部門をはじめ、町社会福祉協議会等の関係団体との協働による地区サロン事業を立ち上げ、介護予防教室を開始した。

また、高齢化が進むにつれ、限界集落と呼ばれる地区も増え、平成 25 年には 10 地区を超え、認知症高齢者も 680 人を超えていた。

そんな中、同年度に、認知症高齢者の行方不明事件が発生し、認知症高齢者の地域での見守りが必要と認識するようになったが、増加する認知症高齢者からの緊急対応や困難ケースの相談など山積みする事務を前に職員での対応に限界を感じた。

## 5 取組の具体的内容

### ◆若年層への理解促進

・平成 25 年に、若い世代の理解を促進するため、中学生を対象に「認知症サポーター養成講座」を実施した。

### ◆県立松山南高等学校砥部分校との協働

#### ◆「県立松山南高等学校砥部分校」の専門分野である「デザイン」を活かした社会貢献

・「認知症サポーター養成講座」の実施に当たり、若い世代にも理解しやすい媒体を作成する必要があったので、県立松山南高等学校砥部分校との協働により、紙芝居と CG アニメーションを作成した。



### ◆民生児童委員との地域情報の共有及び民生児童委員活動に対する意識づけ（活性化）

・平成 26 年に、民生児童委員に福祉調査と合わせて高齢者世帯及び独居高齢者に対する「健康や生活に関する調査」を依頼し、地域でのニーズを把握した。

### ◆地域（老人クラブ等）を巻き込んだ体制づくり

#### ◆認知症高齢者の理解のための集いの場（ほっとカフェの事業化）

・高齢者への訪問事業を委託している老人クラブから、閉じこもり高齢者に対する相談に対応するため、認知症予防に関与したい旨の希望があり、認知症高齢者の理解促進を加速化させるため、町社会福祉協議会と連携して「ほっとカフェ」を立ち上げる。



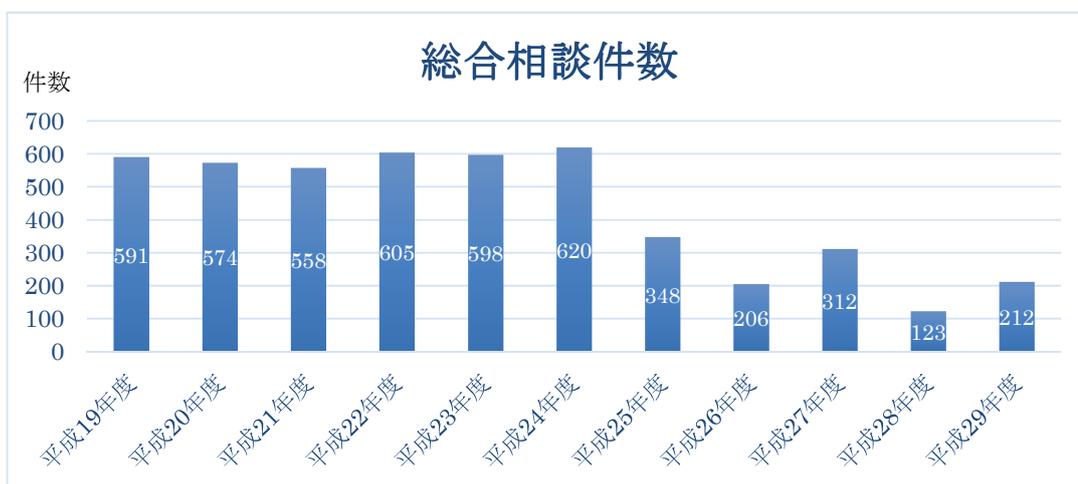
## 6 特徴（独自性・新規性・工夫した点）

- ・ 県立松山南高等学校砥部分校の得意分野である「デザイン」を活用し、「認知症とは？」を紙芝居や CG アニメーションで作成した。
- ・ 民生児童委員や老人クラブ員等、地域に密着している人材を相談役として活用し、地域で対応できるものは地域で完結させた。

## 7 取組の効果・費用

- ・ 民生児童委員へ「健康や生活に関する調査」を依頼したことにより、きめ細やかな地域のニーズを把握することができ、高齢者の相談役となることで、様々な問題を地域で解決することにより、今まで職員が対応していた、緊急対応や困難ケースの相談など最も多かった平成 24 年度と比較すると 65.8%減少し、事務の効率化につながった。

※総合相談件数の推移



- ・ 県立松山南高等学校砥部分校の生徒が作成した、紙芝居や CG アニメーションを活用することで、受講した中学生が認知症への理解が進んだ。
- ・ 県立松山南高等学校砥部分校の専門分野でもある「デザイン」を活用し、紙芝居や CG アニメーションを作成する中で、認知症について学習し、理解を深め、社会貢献に役立てることが出来た。
- ・ 閉じこもりがちな高齢者が、身近な人たちと交流する場として、「ほっとカフェ事業」を利用することで見守り体制の輪が広がるとともに、地域の拠点ができた。

## 8 取組を進めていく中での課題・問題点（苦労した点）

- ・ 現在、民生児童委員や老人クラブ員などが中心に活動を行っているが、参加者の増加により拡大が求められているが人材が不足しており、リーダーの育成やボランティアが不可欠。

## 9 今後の予定・構想

- ・民生児童委員が蓄積している、相談内容等を記す活動日記を活用し、手引書の作成を検討。また、手引書を作成することで、民生児童委員のレベルアップを図り、より一層の事務の効率化につなげる。
- ・各地域ニーズに合った、「ほっとカフェ事業」を展開。
- ・見守り支援を担うリーダーの育成。

## 10 他団体へのアドバイス

- ・閉じこもりがちな高齢者に対するアプローチは、地域に密着した人材を活用することが重要。
- ・行政と接点の多い、民生児童委員や老人クラブと連携することで、様々な問題が発生した際にも、迅速に対応できる。

## 11 取組について記載したホームページ